

横芝光町産業導入拠点形成戦略策定調査業務 概要

横芝光町の概況

横芝光町は、千葉県の北東部、九十九里浜のほぼ中央に位置する、総面積67.01km²、人口約23,000人の田園都市です。市街地には、九十九里平野における最大の河川・栗山川が流れ、水と緑と自然に恵まれた町です。

また、東京駅から特急列車で約80分、県都千葉市から普通列車で約60分、成田国際空港からは車で約30分と、東京にも世界の各都市にも近い町でもあります。



2025年3月には、圏央道大栄JCT～松尾横芝IC間の供用開始が計画されており、東関東自動車道や常磐自動車道と相互に連絡し、環状道路を形成することにより、成田国際空港(成田市)や筑波研究学園都市(つくば市)へのアクセスが容易となり、観光・物流・研究などの発展が期待されています。

交通アクセス

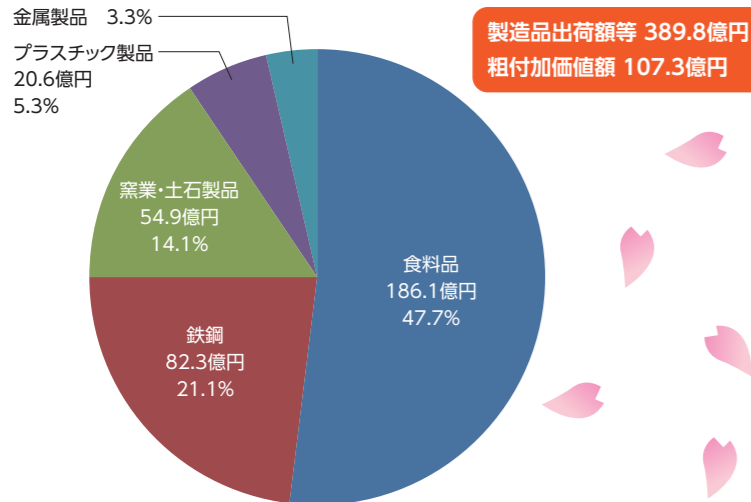


横芝光町の産業

横芝光町は、穏やかな気候を活かして、ネギなどの露地栽培と米を基盤とする農業、建設業に支えられ古くから盛んな窯業に加え、食料品・鉄鋼など、バランスのとれた種々の産業が発達しています。

成田国際空港との近接性や、圏央道の延伸による交通アクセスの向上により、町内の2つの工業団地(横芝工業団地、ひかり工業団地)には多くの企業が進出しており、今後もさらなる発展が期待されています。

横芝光町の産業別出荷額等(2017年工業統計調査)



町内の主な立地企業

日本フォームサービス(株)千葉工場
金属技研(株)千葉工場
ネグロス電工(株)横芝工場
(株)放電精密加工研究所成田事業所
(株)朝日森成田南部物流センター
サンヨーエッグ(株)
横山香料(株)成田工場
(株)スズキ納整中日本千葉事業所
ベルテクス(株)千葉工場
千葉窯業(株)本社営業部



横芝工業団地

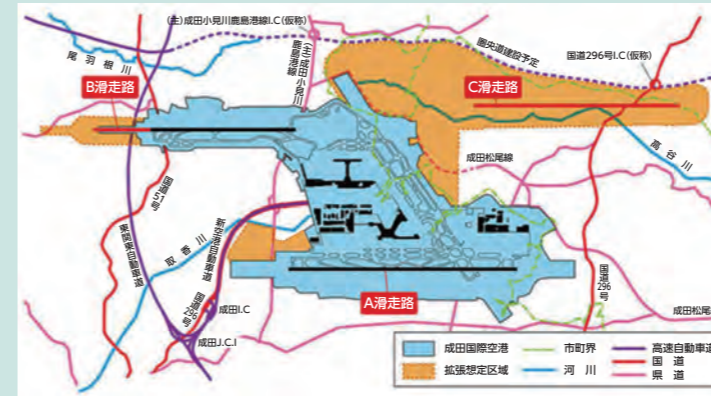


ひかり工業団地

空と陸の交通結節点・横芝光町

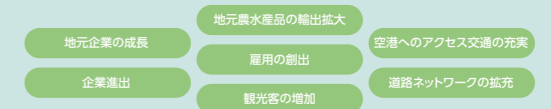
POINT1 成田国際空港の機能強化

2018年3月、国、千葉県、本町を含む空港周辺9市町、成田国際空港株式会社により構成される「成田空港に関する四者協議会」が開催され、既存のB滑走路の延伸やC滑走路の新設等により空港の発着容量を年間50万回とする、更なる機能強化について合意がされました。こうした状況を踏まえ、千葉県内経済団体や企業、関係自治体等の自発的な動きを更に加速・深化させていくとともに、これらの団体等と連携しながら、空港の更なる利用拡大を図りつつ、空港の活力を県内の産業や観光の振興など県全体の経済活性化につなげるための取組が進められています。



旅客数	2018年3月時点 4,000万人	約2倍	発着回数50万回時 7,500万人
貨物取扱量	2018年3月時点 200万トン	約1.5倍	発着回数50万回時 300万トン
空港内従業員数	2018年3月時点 4万人	約2倍	発着回数50万回時 7万人

周辺地域で期待される効果



資料:成田国際空港株式会社HPより

POINT2 広域幹線道路の整備促進

千葉県内では高規格幹線道路の整備が着実に進められており、特に、東京湾アクアラインと一体となってつながる圏央道の全線開通や4車線化の整備進展により、成田・羽田両空港の連携が強化されるだけでなく、東日本と西日本をつなぎ、さらには北関東や東北まで及び広域的な幹線道路ネットワークが構築されます。圏央道大栄～横芝間の整備及び県境～大栄間の4車線化事業について、供用目標が2024年度と発表されており、また、松尾横芝ICからつながる銚子連絡道路は、山武・東総地域の活性化を図り、国道126号の慢性的な渋滞の解消が期待されています。

横芝光町近隣において整備を進める主な路線

路線・箇所名	開通延長	供用目標
圏央道(大栄～横芝間)	18.5km	2024年度(用地取得等が順調な場合)
圏央道(県境～大栄間4車線化)	10.7km	2022年度から順次供用予定
国道126号銚子連絡道路(横芝光町芝崎～匝瑳市横須賀)	5.0km	2023年度(用地取得等が順調な場合)
国道126号銚子連絡道路(銚子市親田町～旭市八木)	3.0km(部分開通)	2023年度(用地取得等が順調な場合)

資料:千葉県道路整備プログラムより抜粋

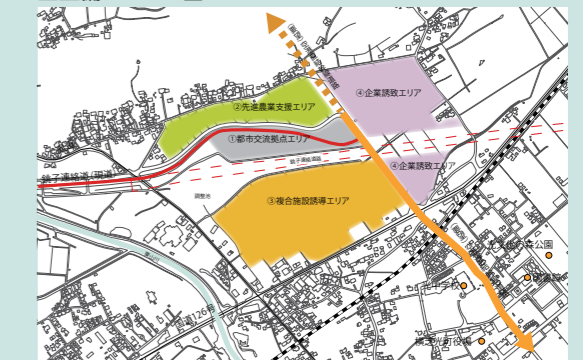
横芝光IC周辺における複合拠点の形成

横芝光IC周辺については、国道126号、空港へ直結する幹線道路、銚子連絡道が交差する広域交通の結節点となることから、周辺にバスターミナル、都市交流施設の整備や企業の誘致など、町の複合拠点としての整備を促進します。

また、当該エリアを南北に通る、空港へ直結する幹線道路については、空港就業者の通勤や空港からの観光客の本町へのアクセス等、定住者の確保や観光振興に大きく関わるものであることから、最優先での整備を促進します。

資料:横芝光町土地利用ビジョンより抜粋

整備イメージ図



産業導入・集積の可能性

横芝光町においては、次のような恵まれた企業立地ポテンシャルを活かし、新たな産業系用地の確保をはじめとする計画的な土地利用と立地環境整備を進めることにより、町内事業所の再配置を含めた域内外からの産業導入・集積を進めることが十分に可能です。

- ① 首都圏中央連絡自動車道と銚子連絡道路の結節点として、東西南北のアクセスの利便性に優位性を持つ。
- ② 成田空港の更なる機能強化により、様々な投資が期待される。
- ③ 将来的には、空港直結道路の整備が予定されており、さらなる立地環境の向上が期待されている。
- ④ 今後の事業所立地や集客施設立地の受け皿(種地)となり得る程度の用地余力も有しており、産業系用地の計画的整備が可能。

企業立地促進の基本方向

(1) 横芝光町の企業立地促進戦略

- A 立地定着促進戦略：**→町内既存事業所の町内再配置(新設移転・拡張等)を中心に、良好な操業環境確保による持続的な立地定着を促進します。
- B 導入立地促進戦略：**→町外本社の事業所(工場・物流施設・集客施設)や県外企業等を中心に、横芝光町の立地優位性を活かした導入立地を促進します。

(2) 導入業種

■商業関連 ■物流業 ■食品関連 ■観光・アウトドア関連 ■ワーケーション関連 ■建設工事関連産業

産業団地開発の必要性

これまでの横芝光町の産業導入・集積は、計画的に開発された産業用地への誘導などによって行われてきており、現在公的な用地は全くありません。今後も、横芝光町において継続的に産業導入・育成を図っていくためには、将来を見据えた受け皿整備を検討する必要があります。

そこで、産業導入拠点形成戦略策定調査を実施し、12か所を評価したところ、横芝光IC周辺地区が産業団地に一番適しているという結果が得られました。

開発と法規制

(1) 開発手法

開発主体	町	区画整理	デベロッパー	進出企業
特長	<ul style="list-style-type: none"> ・道路や水路の公共事業も同時に行える。 ・町の財政負担が大きく、事業期間が長期にわたる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の権利者組合の意見が尊重される。 ・手続きが複雑で、事業期間が長期にわたる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・短期で受け皿整備が可能である。 ・町や地域が進出企業を選択できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要最小限の土地で開発が行える。 ・一体的な開発に支障が出る。

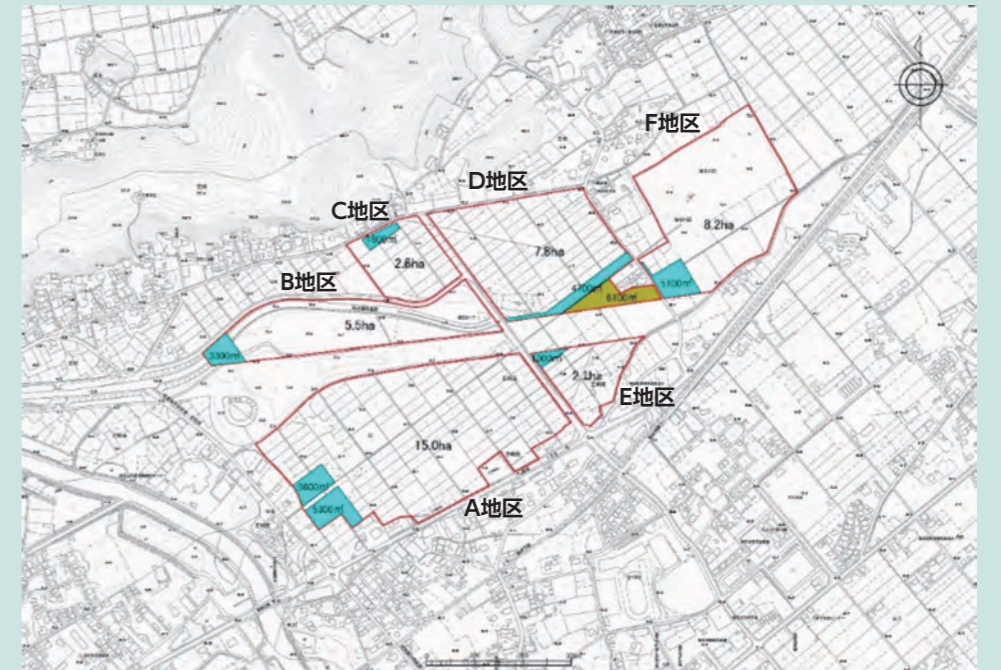
(2) 法規制

・農業振興地域の整備に関する法律 ・農地法 ・国土利用計画法 ・都市計画法 ・文化財保護法

産業団地開発計画

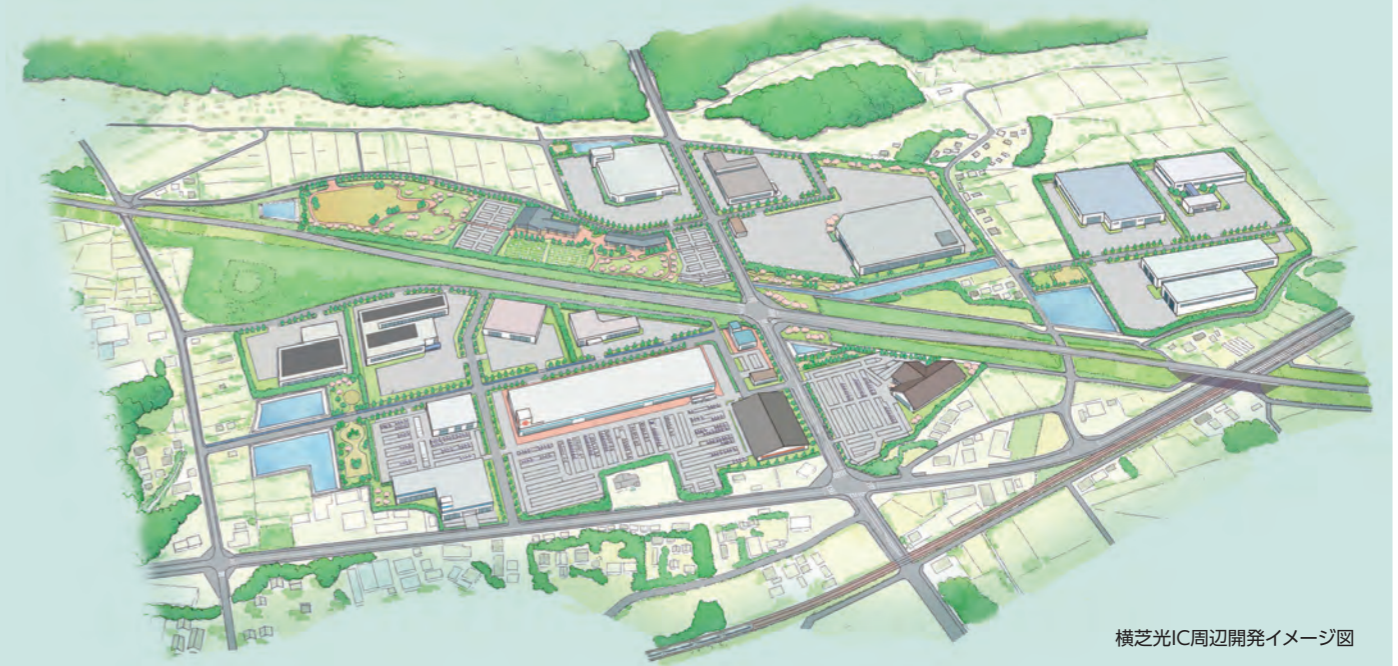
(1) 開発方針

開発地区は、銚子連絡道路横芝光ICの周辺面積約41.2haの区域である。地区内を空港直結幹線道路(計画路線、一部町道I-22号線)が南北方向に通過し、銚子連絡道路横芝光ICを地区内に内包しています。本地区の地形は平坦で、現況の土地利用は、大半が水田、一部が畑となっています。幹線道路等により地区が6つの地区に分割されるため、すべてを同時に開発するのではなく、それぞれの事業の熟度が上がった段階で、地区ごとに開発を進めます。



(2) 土地利用計画

A地区は、複合施設誘導エリアとし、商業・製造業・物流業向け、B地区は、交流エリアでアウトドア等向け、C地区、D地区は、産業誘致エリアで製造業・物流業向け、E地区は、交流エリアでレジャー向け、F地区は、産業誘致エリアで製造業・物流業を誘導します。



横芝光IC周辺開発イメージ図